

「能登香の家」の利用促進を！

栗井村で夏合宿

◆今年も大阪の剣道クラブ(小学生)

【七月十八日から四日間】



真剣な指導と基本動作、張り詰めた空気の中で今年も大阪の剣道クラブの夏合宿が栗井小学校体育館でありました。「能登香の家」で宿泊、練習後は能登香の湯で入浴、夜はバーベキューハウスでバーベキュー。数少ないリピーターです。来年はさらに多く誘客出来るよう協力下さい。



◆美作北小女子バレークラブ(小学生)

【八月二、三日】



このバレーボールクラブのOBの紹介で、はじめて栗井村で夏合宿が行われました。旧栗井小学校体育館と「作東老人福祉センター」を使いまして。一日目は、右手で魚のつかみ取り、夜は福祉センター裏庭で、魚を中心としたバーベキュー、能登香の湯で汗を流し、大広間で宿泊。次の日は体育館で練習。楽しい夏休みの思い出となったことでしょう。



◆岡山学芸館・農業クラブ(中・高校生)

【八月十七、十八日】



昨年に引き続き、岡山学芸館の農業クラブの合宿がありました。能登香の家で宿泊し、東合の「草刈りオリンピック」の跡地で田を再生させ、稲の収穫をしました。都会の中・高校生が素晴らしい活動をしていました。



昼食も提供できます。
栗井村の「ふるさと料理」が味わえます。各種会合にご利用下さい。(ただし、団体利用のみです。)

「能登香の里・小房」再生に向けて

■来年度からの運営計画

今後の理事会の決定を待つのですが、平成28年度からは、能登香の里・小房の活動部に「支配人」を置き、時流に合った運営を取り入れていくことを計画しています。責任体制も明確にしていきたいです。候補者は、来年3月で任期を終える赤星隊員です。併せて、有友維持管理部長の下で、土肥隊員が維持管理にあたることも企画・区長会で決まりました。この夏から作業をしていく予定です。



■自立を目指して

来年3月で、3年間やってきた「都市農村共生・対流総合対策交付金事業」が終了します。この事業を支えてきてくれた、赤星隊員も3年間の地域おこし協力隊を卒業します。そして栗井村で新たな挑戦をはじめます。彼の特徴を生かして、能登香の家のネット予約を開始します。この栗井村にもいよいよネットの時代が到来します。

「能登香の里・小房」施設改修事業



この夏、能登香の家の駐車場のラインと、能登香の家の畳全てが新しくなります。来年度は、ブラインドと網戸の番です。

■「能登香の家」でバーベキューを！

なぜバーベキューで地域おこしを考えたか

地域おこし協力隊・土肥浩之

能登香の家の草刈りを、2ヶ月ほどやる中でお客様がどのようこの施設を利用しているのかを観察した。その結果施設の利用の仕方として「バーベキュー」が一番多かった。欧米、中東、南米の肉食の文化は日本よりも遥かに優れている。対して日本人はバーベキューと焼き肉の違いが区別できていない現状があり、炭の起し方、炭のレイアウト、炭火での調理などの点において正しいやり方を知らない人が多数である。



・美作のジビエは処理施設の整備や処理数は優れているが、消費者にどのように届けるかという点で弱いが、特に日本人は「鹿肉、猪肉」をどのように調理しているか分からない。そこで、ジビエを美味しく食べるための方法として正しいバーベキューによる調理を提案したい。

① キャンプ場での本格バーベキューの提供
能登香の家・キャンプ場の集客、売り上げ向上の為に「コンテナ」として「バーベキューインストラクター」2名(土肥・赤星)による本格バーベキューをお客様に提供する。
現状で、バーベキューインストラクターが料理を提供するキャンプ場は岡山県下にはない。正しいやり方でのバーベキューを提供すれば「うまい!」こんな食べた事がない!とお客様に感動してもらえ、それは間違いがない。

・真のバーベキューが持つ肉食の文化・世界観・エスナターテイメント性を中心にキャンプ場をブランディングしていく事で、今までにない価値を持つたキャンプ場アウトドア空間を演出する事ができる。

② イベントでの出店
美作のジビエをバーベキューグリルで調理し、イベントで出店する事で美作ジビエの知名度、ブランド力向上を図る。
レシピ案↓鹿肉のソーセージ、スペアリブ、ポーンステーキ等。地美恵の郷と提携。

③ 商品開発
アンコールペッパーを使った商品開発
香辛料を使った栗井オリジナルバーベキュークラブ(肉に擦り込み調理する為のスライス)の開発

たゆまぬ前進 生活交流グループ 特産品開発

【七月二十二日】

【第2回・作州草刈りオリンピック】

【八月八日】



旧栗井小学校(旧栗井小学校)で草刈りオリンピックに新しく出来た加工室、調理室にむけて、毎月1回「料理教室」を開催しています。どなたでも参加可能です。(月末の金曜日)



美作市の組織の簡略化に向けての取り組み

美作市には、32の自治振興協議会があります。そして、214の区があり区長がいます。行政事務連絡協議会もあります。美作市の「くらし安全課」を事務局として、これらの組織を統一して、組織を簡略化する試みがスタートしました。10月6日には、市長、各総合支所長、くらし安全課職員、自治振興会長(内参加21人)で兵庫県朝来市山東町の「与布土地域自治協議会」に研修に行ってきました。美作市とはほぼ同時期に合併し朝来市となりました。そして、合意形成に時間を割き、素晴らしい自治組織「与布土地域自治協議会」を設立しました。美作市も参考にしていきたいです。

特徴は、各戸1名の代表による意思決定からの脱皮でした。年齢や性別を問わない、あらゆる人の徹底した協議による、民主的な組織運営でした。合意形成に時間を掛けた成果を見られました。

【編集後記】 統合後、約半年が過ぎました。栗井地区の将来像は、実現に時間がかかりそうですが、「与布土地域自治協議会」が目指す「与布土村」構想は、「栗井村」構想と非常に似ていました。私達が視察した島根県の雲南市とも協力関係にありました。地域支援員制度は雲南市と協力して、総務省をも動かしたそうです。説明をされた、朝来市の総合対策課職員・馬袋真紀さんの自治に対する確固たる信念に大変感銘を受けました。栗井村もぶれることなく、より民主的に前進していきたいものです。栗井地区村創りの会と共に。